

同窓会報

NO. 26
1979. 12

発行——山形県米沢市門東町1丁目1の72号 九里学園同窓会事務局 TEL 0238-22-0091



同窓会主催記念音楽会

「津軽三味線と尺八
そして御諱訪太鼓」

同窓生のみなさん、お変わりありませんか。この会報がお手元に届く頃は、米沢にも冬将軍がやつてきて、いかにも雪国らしい風情になっているかも知れませんが、いま九里学園では実りの秋にふさわしく、各種の活動に精を出し、着実にその成果を確かめ合っているところです。

体育系クラブの新人大会は、各クラブ共に善戦し、バスケットボール・バレー・ボーラー・陸上競技・フェンシング・バドミントンなどが優勝したほか、剣道・ソフトボール・新体操が準優勝しました。県大会でも、ハンドボールが優勝するなど、全体として近年にない好成績で、スポーツの秋。を飾りました。

文化系クラブも張り切っています。吹奏楽クラブの第十二回定期演奏会は成功裡に終了し、いま演劇クラブが第五回自主公演を間近にして総仕上げに余念がありません。クラブではありませんが、芸術コースの音楽専攻の二、三年生が中郡中学校の創立記念行事に招かれて、すばらしい移動音楽会。をやつきました。

×

今年の校内合唱コンクールは、これまでのようによろづく予選をやらずに、全クラスが一堂に集って、クラスマッチの形でハーモニーを競い合いました。休み時間や放課後、校舎のあちこちから美しいコーラスが聞えてきて、まさに「芸術の秋。」にふさわしいムードをかもしだしました。とくにコンクールの最後に、一二〇〇名の全校生が課題曲「組曲魔王」・「早春」を大合唱した時は、若者の歌声が大きな体育館に響きわたって、まことに感動的な場面を味わいました。

×

いま全国的に、人口過疎地方の生徒数の急減による私学の危機が取り沙汰されていますが、九里学園はいま、こうして生徒も教職員も一丸となって、新しい立派な学園づくりに精を出しています。同窓会の皆さん、温かい母校愛と、積極的なご厚情に支えられながら更に一層の精進を重ねて、輝かしい学園の歴史を築いてゆきたいと思います。

(加藤和夫記)

学園
近況

他校訪問

昭和二十五年度卒

須藤昭子

五十四年度同窓会事業の研修部門で、全く新しい企画「他校同窓会訪問」が、十月十五、十六日試みられました。

東京支部長占部さんを始め、支部の先輩諸姉・大久保・柴田皆様の心温まる和やかな交流の場となりました事、大変有難く嬉しく思つて居ります。最初に訪問しました東京家政大学は、明治十四年四月六日、本郷湯島四丁目に設立された「和洋裁縫伝習所」が学園最初の出発点といわれ、爾来百年に跨る歴史は、日本の女子教育の発展を示すもの……とある。何よりも我が校の創立者、九里とみ先生が明治二十九年御卒業になって居られるという、卒業生名簿にお名前を見ます。

広大な大学の、天を覆うばかりの古木・新樹の緑の多いこと、さながらにして有史以来を語つてくれるものといえましょう。そうした中につれて、時代を思わせる立看板があちらこちらに見え、自閉的な居、緑窓会館にお邪魔し役員の方にお会いする。初めての御対面とは思えぬ程の和やかな中に、大変御丁寧なお話を伺います。渡辺学園窓会々則ー会員のお互いの親睦はもとより、教育の向上を図り母校の発展に大きく寄与なさつていらっしゃる活動に、多くを学ばせていただきました。

会員数二万五千、会員カード、会員コード番号

によって常に諸種の連絡が可能になつて

いる。地方について

は、支部組織が非常

に活発であることや、

二年後の百周年を前に一億五千万円の寄付を目指しているなど、具体的な面についてのお話しも、

東京家政大学



快よくお聞き出来ま



女学院フェリス

幾重にも坂を曲がりくねつて、教会の多いことも洋風作りの建物の多いことも、国際港横浜にふさわしく、この地に、来年百十周年を迎えるフェリス女学院

がある。

創立者、ミス・メリエ・E・キダー。アメリカの婦人宣教師として来日、通称「ギダーさん」の学校といわれていた。洋館の校内、資料室に掲げられた明治時代の同校の絵は、小さな駒舟を浮べた入江、その後ろの丘に建つ風車をとりつけた洋館の学校ー「風車の学校」ともいわれ、オランダの風景画のような趣がある。

整然と陳列されている数多くの資料に、百年余を想像するには余りにもエキゾチックなものばかり、容易には出来ない。

新しい賢母像を目指して、明治初期の母親に期待された文明社会を作り出す革新的な役割を果たしている。

三つの柱として、キリスト教(信仰)、語学力(英語)、人間としての自律した(職業)女子教育を目指となされておられる。女子だけの学校の良さを強調なさい、必ずしも男女共学を良しとせず、と校長先生のお話を拝聴する。

整理されてある資料も百周年(昭和四十五年)機に手がけられた。資料は、人物カード、震災以後のもの、これらは卒業生の寄付が多い。個別に大事なものはコピーにする。

十時過ぎ、毎周火・木に同窓会役員の方が常勤になる。フェリス白百合会の同窓会室に席を移して会務についてお聞きする。役員会、クラス幹事会は、総会に代わる重要な会議のために、欠席者は代理人、又は委任状を求められている。

総会のプログラムは、午前十時半からカンパ第一歩の九里とみ先生はいつたい何を思つていら

したこと非常に嬉しい感謝しております。

と七十歳の方を招待なさる。体育館での懇親会、会食ときどき心和む思いが感じられる。いかに御活躍が素晴らしいかは一目瞭然、支部組織においてもうなずける。

同窓会室での二時間に及ぶ間断ないお話にすつかり時を忘れる程で、最後にカイバー記念堂のステンドグラスを拝見する。磨かれた長椅子の重厚さに敬意なものを感じる。

東京家政大学同窓会「緑窓会」「白百合会」フェリス女子学院同窓会「白百合会」の皆様と共に心ゆくまで思うがままのお尋ねにも快よくお話を頂きました。素晴らしい御活躍の数々の資料を、本当にありがとうございました。

先輩諸姉皆様の御配慮で、横浜の町を歩いて「港が見える丘公園」「大仏次郎記念館」「中華街」での食事をと、大変御世話様になり帰路に着きました。

此の貴重な機会をつくって頂きましたことに、心からの感謝とお礼を申し上げます。

雪

雪

雪

雪

「やはり訪問してよかつた」という思いで、私は暮れなすむ夕日を車窓から眺めていた。

二校とも百年という長い伝統に培われながらじっくり思考され、最良の方針を見出されていたと思ふ。

私達がまず手がけなければならないのは、会員一人一人の同窓生としての自觉を喚起することではないかと思ふ。そして、学校に勤務される同窓生の方々だけの主動型に大いに問題があると思う。

理事は理事として動いているのか、幹事は幹事として何をしてきたか。事務局からの募集がなかなか集まるのではなく、問題があればいつでも、正副会長、そして理事が中核にならなければ何も始まらないと思う。

「同窓会とはいつたい何だ。何のために、何をして何をしてきたか。事務局からの募集がなかなか集まるのではなく、問題があればいつでも、正副会長、そして理事が中核にならなければ何も始まらないと思う。

「同窓会とはいつたい何だ。何のために、何をして何をしてきたか。事務局からの募集がなかなか集まるのではなく、問題があればいつでも、正副会長、そして理事が中核にならなければ何も始まらないと思う。

いろいろの思いが私の頭の中をよぎった。帰郷されたのだろう……。(昭和四十二年卒 大久保記)

旅行記：お隣りの国へ来ました。

この夏、思いがけず中国友好の船、「耀華号」で訪中船の旅に参加でき、天津、北京、旅大、瀋陽の各都市を歴訪し、熱烈な歓迎を受けながら、予定の二週間はまたたく間に経ってしまった。その日々を振り返り、メモ帳から少しひろつてみたと思う。見知らぬ国を訪れるには何の構えもなく余りにも不十分な心の旅仕度であつたが、三百名を遙かに越える同行の方々は、家庭の主婦、会社社長、大学教授から中学生に至るさまざまな立場の人集まりで、今まで一面識もなかつたのにまるで十年来の知己のように、お互に心安く話し合えるのが不思議であった。これが旅の開放感の一つである。

—日本製—

昨年中国旅行をされた先生方の話では、乗物は自動車も汽車もクッションが悪く、ガタガタのボロだつたとのこと。然し、今回は中國の地に第一歩を踏み入れ、天津で乗つた貨切りバスはクリーミ色の新車で、説明によると、製造元は日本のトヨタの自動車であつた。勿論、クッションもよく、クーラーもきき、乗心地は快適であつた。

船の中でも中国料理の講習会が開かれ、饅頭作りに使用されていた粉の袋を見たら、日清製粉の文字が印刷されており、内心面白いよくな、又日本

の産業の力強さを感じた。瀋陽に向う列車の中では扩声器からガングンと高い音楽が流れ、しかもそれが花笛頭であり真室川音頭であつたりで、旅情を慰めるサービスのつもりであろうと考えたけれど、どうもこれには閉口してしまつた。

—中国式—

中国のお茶はやはり独得のものであつた。馴れてお茶の葉を直接入れて、ポットのお湯を七、八分目にそそぎ、蓋をしてしばらくの間おいたお茶の葉が底に沈んだころ飲むのであつた。のんびりしていて如何にも大陸的だと思った。

—燃える色—



公共施設の場所に限らず、街の至る所に真紅に塗つて白く大書した看板がやたらに多かつた。(毛沢東万歳、自力更生、自主独立、學習學習再學習) 等の文字が一番多かつたようだ。中国建設の思想のものと、スローガンがこうして燃える炎の情熱の色、迫るような大きな文字で人々の心をかきたて、社会主義体制へと統一して行くのであろうか。文字の国、漢字の国として我々のお手本であつた文字が、今余りにも簡略になりすぎて、良し悪しは別としても私はさびしい気がした。

見学した数々の名所旧跡、それは日本では見ることのできない規模の大きなものばかりで、國の広さ、人々の多さ、歴史の偉大さもつくづくと感じさせられた。

驚き、それは万里の長城であつた。今こうして観光地化してしまつた、雄大な眺めを上つたり下つたりしているけれど、この城壁を築く時、この国の民族は如何なる思いでこの困難な作業を成し遂げていったのだろう。「この長城は中国の人々の智恵と労働の結晶です」と静かに、きつぱりと言つた通訳の顔は明るく誇らし気に入られた。

—質素優約—

私たちの年代は小さい時からよくこの言葉をきかされ、又それを実践してきたので、物を無駄にすることなく何か大変悪いことをしたような気持ちになってしまふ。中国では今正に一人一人が質素優約を励行しているのではないかと色々な面から想像された。夜、街々の外灯は非常に暗かつたし、車のヘッドライトも暗い。男性も女性もその身なりの質素なこと。折り目のビシツといたずボンを穿いた男性には一人もお目にかかるない。ワニブースなど着ている女性も又数えるほどしか見当らない。日本で売つてある中国製のすばらしい刺しゅう入りのアラウスや、レース編のセーターを身につけている人とは全然違わなかつた。バーモト化粧もしらない素顔は傍で見ていると本当にきれいでいたが、個性がなかつた。しかし、中国の全人民が労働に参加し、現代化への一端を担つてゐる意識しているような顔に見える。

その国の風俗、習慣、伝統等を抜きにしても、それいだつたが、個性がなかつた。しかし、中国の全人民が労働に参加し、現代化への一端を担つてゐる意識しているような顔に見える。

職場訪問

昭和十年卒

(旧姓油井) 原田さだ

快よい秋風の吹く日、原田先生の家をお訪ね致しました。静かな部屋の中にも楽しく、真剣に和裁に勤む方々が十名位いらっしゃつたでしょうか。

初めてお会い致しましたのに親しみのある温かなお人柄に、母とでも話しているような気樂さで楽しくお聞きしました。

原田先生の経歴を簡単に申しますと、昭和七年本科二部入学、師範科を経て、昭和十年に卒業、その後青年学校、小

学校に勤務され、ご結婚、昭和四年頃から自宅に

おいて和裁を教えられ、今日に至つておられます。

将来自分が人に何かを教える仕事につくとは思つてもいいなかつたけれど、ある時みた本の中に、人にものを教える手相であることをみつけ、漠然とながら「先生になるのかな」と思われたのです。

九里時代は毎日三里の道のりを、大きな荷物を背

おしながら徒歩でかよい、冬は腰まで雪を撒き

分けながら通学したことや、在学中に先生方から腕を認められ、紋付き、袴などを縫うなど、大変なこ

苦勞があつたにもかかわらず、懐しげに淡淡と語つておられる姿は印象的でした。

「人に教えるように私は習つてきたし、それが天

命のように思つていて」とおっしゃるように、教え

ていただいている人は、「先生はしっかりと教えて下さい」といいます。この話は、先生のたゆま

ない努力と情熱が、大勢の方々に感謝されておられ

る証拠でしよう。

「根性があり」が一番嫌いとおっしゃる先生、年

を重ねられていつも心から家族の方々の協力を感謝しておられるお妻に、長い間に優しいお人柄を

拝見致しました。

インタビューの後、先

生ご自満のいいらしい漬物を、遠慮もなしに二鉢も

ご馳走になりました。



世界のお母さんたち」



去る七月十四日、例年実施しております研修会を、今年も無事終了することができました。毎年、秋に実施しておりましたが、時期的に問題があるために、参加者が非常に少なく、今年は夏に繰り上げて実施いたしました。

この日は、あいにくの雨降りでしたが、参加者は、同窓生の方が三十名程、一般の方が二十名程度、計六十名近くの方々がお集まり下さいました。今日は、九里幼稚園のことについて何かと御指導頂いております亀田佳子先生に「環境と教育—世界のお母さんたち」というテーマで講演して頂きました。亀田先生は、「二十一世紀教育の会」の活動や、NHKの子供教育番組担当出演など、教育活動を盛んに行つておられる方です。

第六回 研修会

講演会に参加して

昭和二十二年卒 佐藤せつ（米沢中央保育園勤務）

厳暑の七月十四日(土)、新築された母校の附属幼稚園に於いて講演会が開催されることを誇りに思ひ、他園の先生方を電話で説き、自園の職員数名と共に出席しました。

いつも変わらぬ笑顔でお話し下さる校長先生の御説明に和やかな雰囲気がかもし出されました。亀田先生のご講演は「環境と教育」という正に二十一世紀の教育の展望についた有意義なお話でございました。欧米先進国的情報は、いろいろあります

たが、民族性の違いでどうか、人間研究を土台に、百年先を見通した環境づくりと構想は、私たち日本人のせっかちな短所を強く反省させられ、今後の私の人生に大きくプラスになるお話をございました。特に私たち幼児教育を担当する者として、その責務の重大さを、あらためて認識した三時間であつたと思います。「人間が人間になるため

に、人間らしい表現と感性を培う教育とは、何を美しいと感じさせるか、何をもつて良い事だと感じさせるかに集約される」この集約こそ私たちに課せられる保育だと思います。この集約的な愛情が必要である。0才児期に愛情をかけなければ三才児には三倍の愛情量が必要だ、と有効率の低減を教えて下さったことが、忘れられない言葉でした。子供の中にあるものを、存分に引き出すことこそ私達の仕事である。野の草が厳しい自然の中で生きると同じように、子供たちの小さい目が多く試練を含めて大きくふくらむようにさせなければなりません。

この度の講演を通して感じたことは、二十一世紀に担う子供たちを成長させるために、「環境と教育」を見直し、子供を育てる新しい手段を考えなければならぬということでした。よい環境とは何んであるかを、もう一度考え、子供の創造性を伸ばす環境づくりということを、真に取り組まなければと痛切に感じた次第でした。最後に母校な

らびに幼稚園の益々の発展をお祈りいたします。

昭和十年度卒
(妻)山崎ユキ

宇宙の神秘?

山崎時夫

「ワifを語る

僕は小さい時から食べものに好き嫌いが多い。一番嫌いなものは茄子と大根の煮たの。茄子を見ると僕は人生がいやになる。大根の煮たの、匂いを嗅ぐと絶対に嫌いです。

最後に、今後増え盛んな研修会を実施するため、皆様の御意見、御希望をお聞かせ頂きたいと思いますので、事務局まで御知らせ頂ければ幸いであります。(四十九年卒 柴田記)

講演は、先生が世界各国を訪問された時の体験談をふまえ、盛り沢山の内容でした。集まれた方々は若い方、子育ての真最中の方、孫育ての方々まで、年齢層が厚く、それぞれの立場から吸収することが数多くあり、更に教育の難しさも再認識なされたことと思われます。

この研修会の主旨は、会員が意義ある研修を行ない、更に、会員の親睦を高めることにあるわけで、今回の研修会は、大成功に終わったと思っています。

最後に、今後増え盛んな研修会を実施するため、皆様の御意見、御希望をお聞かせ頂きたいと思いますので、事務局まで御知らせ頂ければ幸いであります。(四十九年卒 柴田記)



講演は、先生が世界各国を訪問された時の体験談をふまえ、盛り沢山の内容でした。集まれた方々は若い方、子育ての真最中の方、孫育ての方々まで、年齢層が厚く、それぞれの立場から吸収することが数多くあり、更に教育の難しさも再認識なされたことと思われます。

この研修会の主旨は、会員が意義ある研修を行ない、更に、会員の親睦を高めることにあるわけで、今回の研修会は、大成功に終わったと思っています。

最後に、今後増え盛んな研修会を実施するため、皆様の御意見、御希望をお聞かせ頂きたいと思いますので、事務局まで御知らせ頂ければ幸いであります。(四十九年卒 柴田記)

講演は、先生が世界各国を訪問された時の体験談をふまえ、盛り沢山の内容でした。集まれた方々は若い方、子育ての真最中の方、孫育ての方々まで、年齢層が厚く、それぞれの立場から吸収することが数多くあり、更に教育の難しさも再認識なされたことと思われます。

この研修会の主旨は、会員が意義ある研修を行ない、更に、会員の親睦を高めることにあるわけで、今回の研修会は、大成功に終わったと思っています。

最後に、今後増え盛んな研修会を実施するため、皆様の御意見、御希望をお聞かせ頂きたいと思いますので、事務局まで御知らせ頂ければ幸いであります。(四十九年卒 柴田記)

19才の決断

昭和50年度卒 山口比佐子

昭和51年4月19日。19歳になつたばかりの私は、未知の国エジプトに向う飛行機に乗りました。目的は外交官一家の家事手伝い。エジプト行きは、私にとって初めての、そして最大の決断でした。

カイロでは連日の猛暑、ちんぶんかんぶんのアラビア語と文字、不思議な習慣のイスラム教などに、最初は驚きと戸惑いの連続でした。それから1年ぐらいで仕事にも慣れ、なんとかアラビア語も片言話せる様になり、心にもゆとりが出てきました。私の部屋から天気の良い日は「ギザ」のピラミッド群が見渡され、疲れた心身を幾度となく和ましてくれました。「ギザ」は近くにあるので何回も行くことができました。

1年目の夏休みにアレキサンドリア方面に行ってきました。「シティアブデュルラハマン」という海岸は目の前が地中海、後ろは果てしなく続くリビア砂漠で、海の色は子供の絵のような色で、今でも目に焼きついています。

2回目の旅行は、たった1人でスーダンとの国境近くの「アブシンベル」から「アスワン・ルクソール」と古代遺跡を中心に数多く見学してきました。それぞれがとても巨大で、古代王朝の権力が偲ばれました。

今、帰国してエジプトを想うと、辛かったこと淋しかったこともありますが、やはり19歳の時の決断は正しかったと思います。

昭和54年8月13日。私は帰国しました。

アブシンベル神殿のラムセス二世の像



「マッサラーマ・マスリ」(さよならエジプト)そして、「ショコラン」(ありがとう)と言う気持ちで一杯でした。

同窓生の皆様にはいかがお過でございますか、御伺い申し上げます。私この度また突然にして学校の方から原稿の依頼を申し受け、自信のないまま日々が過ぎてしまい急いでベンを取り次第でございます。

年中行事としての音楽会も今年は創立七十八周年を記念して「津軽三味線と尺八、そして御諏訪太鼓のひびき」という、秋にふさわしい古代音楽をすばらしい音色で聴かせて頂き、本当に満足して参りました。太鼓の響きは祭り太鼓しか耳にしたことのない私にとって、あのバチさばきの見事さは、芸に生きる方々の情熱と、そのチームワークの良さに、しばし我を忘れる思いでございました。

又、津軽三味線も格別で、五人が一体になり、かなりの速度と強弱の繰り返しに何度も会場から感動の拍手が贈られたことは申すまでもございません。

数々の曲を楽しみ、そして、一年振りに再会する恩師や同窓生の元気なお姿を拝見し、しみじみと意義のある音楽会に感謝して参りました。今後も尚一層、母校の発展と、この良き行事を継続頼えることを祈つてやまない次第です。

昭和三十年度卒業

竹田 章子

昭和四十四年度卒業

西山 信子

九里の友の集い

同窓生の皆様にはいかがお過でございますか、御伺い申し上げます。私この度また突然にして学校の方から原稿の依頼を申し受け、自信のないまま日々が過ぎてしまい急いでベンを取り次第でございます。

年中行事としての音楽会も今年は創立七十八周年を記念して「津軽三味線と尺八、そして御諏訪太鼓のひびき」という、秋にふさわしい古代音楽をすばらしい音色で聴かせて頂き、本当に満足して参りました。太鼓の響きは祭り太鼓しか耳にしたことのない私にとって、あのバチさばきの見事さは、芸に生きる方々の情熱と、そのチームワークの良さに、しばし我を忘れる思いでございました。

又、津軽三味線も格別で、五人が一体になり、かなりの速度と強弱の繰り返しに何度も会場から感動の拍手が贈られたことは申すまでもございません。

数々の曲を楽しみ、そして、一年振りに再会する恩師や同窓生の元気なお姿を拝見し、しみじみと意義のある音楽会に感謝して参りました。今後も尚一層、母校の発展と、この良き行事を継続頼えることを祈つてやまない次第です。

忙しい家庭生活を送つておりますが、外出することも少なく久しぶりに音楽会に出かけました。会場に入るとなぜか懐かしい気持ちになつたのは、学生時代に懸しんでいた事が思い出されたせいでしょうか。

日本の伝統的なものであり、若い人にはどうかと思つていましたが、十分興味を持っておられる方々が大勢集つて下さつたようです。

三味線、そして尺八の音色は古くからなじんだ響きで、曲の中には私達の身近なものもあり、私の席の近くの方などは演奏に合わせ歌つておられました。好きなものは老若関係なく同じ感覚を持ち感動し、心をほませるものではないかと思ひ、なにか楽しい気持ちになりました。

三味線の糸の細さからも、そして太鼓の響きからも、体全体の力強さを感じ、日本の良さと、新たな親しみを感じました。

深い感動を与えてくれた音楽会に、私も父を誇つて出かけたらどんなに喜んでもらえただろうと反省しているところです。

六月三十日(土)、東京の市ヶ谷の私学会館で開かれた「九里の友の集い」に同窓会東京支部も近づいて、毎年はじめて御一緒しました。この会は関東地区に開催された事が思い出されたせいです。

日本が毎年開いているものであります。学校からは校長先生はじめ、数名の先生方が出席され、東京支部の会員も三十数名、これに加つてなかなかの盛會であります。若い方たちと一緒に学園の近づく方などは演奏に合わせ歌つておられました。好きなものは老若関係なく同じ感覚を持ち感動し、心をほませるものではないかと思ひ、なにか楽しい気持ちになりました。

九里幼稚園の八ミリを見せて頂いたり、みんなで校歌を歌つたり、米沢のサクランボを食べて故郷を懐しんだり、若い昔を想つたりして時の経つのを忘れるような楽しい時間をお過ごしました。……

又、御一緒出来ればよいなあと思いながら、母校里幼稚園の八ミリを見せて頂いたり、みんなで校歌を歌つたり、米沢のサクランボを食べて故郷を懐しんだり、若い昔を想つたりして時の経つのを忘れるような楽しい時間をお過ごしました。

幼稚園だより

九里幼稚園も発足して八ヶ月、周囲の方々の暖か

い声援のうち、すくすくと育つた感じ。殊に女子高の職員からは本当に御世話をなつた。最近は園児もすっかり九里幼稚園児となつた。保護者との交流も心を通じ合うようになり、園の職員もホツ

とした思ひです。

九月迄は職員も外部を意識して頑張つたが、これからはいよいよ本來の自分達を取り戻して内部の充実に精進する。先日、園の畑の作物の収穫、園児が土の中から大根を掘り出して大喜び、南京豆も出て来た。その眼の輝き、これから米沢の長い冬籠りの中でも、毎日／＼その時の眼の輝きを失わせないようになると職員は心に誓う。小関教頭先生の密度の濃い計画、指導の下で四人の女子職員の園児に対する周到な保育、その底を流れる愛情は、これから様々な障害にも克服して進むであろう。同窓会の皆様の御後援を願ひつつ、近況報告まで。





昭和十一年度卒

永井ます

昭和三十八年度卒生担任

大志田万鬼子

「卒業以来十五年」というクラス会の招待を受け、その当時のアルバム・文集などを出して懐しく思い出しながら出席いたしました。

祝うべく帰省し、創立記念行事の開かれていった母校訪問と、上杉記念館の見学を加え、小野川の宿に一泊して参りました。出席者二十名共々楽しい一夜でした。

母校では校長先生、田中先生より御案内頂き、校舎と文化祭を見学しまして、遠い昔に想いを馳せて感無量でした。

新しい幼稚園の設備、環境、すべてに唯々驚くばかり、私も米沢に住んで居たらきつと孫達を学ばせてやりたいと考える事でしょう。卒業なさった方々、是非母校訪問をなさつてご覧なさい。心豊になつて帰られますこと存じます。

さて、クラス会は、温泉一泊、翌朝、大黒様で御祈禱、つきたて餅の朝食と、実にふる里の味でした。

四十余年ぶりの顔に戸惑つたり、なじみの顔と話は尽きず、笑いころげ、歌い、日頃の何とやらも吹き飛ぶ心地でした。

不思議なもので、何時の間にやら、昔の生徒の顔のままなのですもの、顔のしわも消えて……。

先日お別れしたばかりなのに、再会が今から待ち遠しい。どうぞ御元気で……。

附 須貝先生の御姿

見えず残念でした。

(御不幸おありとの由で)



又学生時代とは殆ど変わらない人、ずいぶんスマートになつた人、いろいろでした。でも、ひとときを過ごしているうちに、すっかり学生時代の顔、姿にもどり不思議なものです。

幹事の方の挨拶の後、各自近況報告、十五年間のブランクをうめるべく報告しあつたのですが、中でも、子育ての難しさ、家庭の大切さ、主婦の仕事の重要さ、これから農業のあり方など、又学生時代に勉強したことの実際に活用し、姑に感心されているという話、そして又、もう一度学生に戻り、勉強しなおしたいと痛切に感じている人など、ともあれ十五年間のすばらしい成長ぶり、主婦として立派に家庭を受け持つ姿が伺えて、本当に嬉しく思いました。



また逢う機会を約束して散会致しましたが、幹事の方々の大変な御苦労に感謝いたしておりました。

九里学園同窓会 昭和54年度予算

◎収入の部

項目	54年度予算(案)
縁越金	361,336
入会金	439,000
終身会費	878,000
雑収入	10,000
仮受金	1,320,000
合計	3,008,336

◎支出の部

項目	54年度予算(案)
運営費	(568,336)
事務費	30,000
通信費	30,000
会議費	30,000
慶弔費	250,000
人雜費	150,000
事業費	78,336
研究費	(520,000)
研修費	100,000
会報費	150,000
員報費	200,000
歌謡費	20,000
保存費	50,000
本金	(600,000)
繰越金(仮受金)	(1,320,000)
合計	3,008,336

クラス会をやります

九里学園の教育 第七号ができました。

特集　「廿一世紀への教育」
論文　これからの教育　九里茂三
座談会　おいたまの風土の中で
実践報告　廿一世紀の教育を考える

特別寄稿　スポーツクラブの指導について
海外研修をして来た本校生徒たちの手記
留学生・ホーリーさんからの手紙
山形大学名誉教授 安在武八郎

国際教育　留学生・ホーリーさんからの手記
海外研修をして来た本校生徒たちの手記
その他、長瀬先生の論文等
学園祭関係の写真多数
御希望の方は一、〇〇〇円を添えて
事務局へ申し込んで下さい。

編集あとがき

年内にお届けすることができホツとしております。初の試み「他校訪問」いかがでしたか。是非一読なさいて、お互いもう一度同窓会の意義を確かめ合いたいものです。

御意見、御感想を事務局までお寄せ下さい。

